

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 2470300530 | | |
| 法人名 | 有限会社 友の里 | | |
| 事業所名 | グループホーム 友の里 | | |
| 所在地 | 鈴鹿市長沢町1750-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年12月15日 | 評価結果市町提出日 | |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470300530-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 28年 1月 13日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりが、家庭的な場所でその人らしい生活を送って頂く事を目標に掲げ、職員全員が気づきと関わりのなかで意識を持って取り組んでいる。また、ご利用者様が心身の機能が低下した場合でも日々の業務の中で、生きがいや楽しみを感じていただけるよう支援している。利用者様には、1日の流れの中で役割を持っていただき「食事、おやつ時の挨拶」や職員と一緒に掃除など役割を果たしながら支えあって、ゆったりと落ち着いた過ごし方をしている。地域の学校から行事への参加の招待があり「物作り」に参加したりと地域の一員として認められたホームとなっている。職員も日々より良い介護をと悩み葛藤しながら、実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社協出身の管理者が利用者一人ひとりに対し「ゆっくり、のんびり、楽しく」過ごせる場所としての想いから設立された1ユニットのグループホームであり、自分で出来る事には手をださず「待つ」姿勢を大切にする基本的な考えで支援されている。職員は勤続2年以内の30代～60代でコミュニケーションを大切に「生き生きとして」日常の支援に携わっている様子が伺える。利用者は車椅子での生活者が8人中5人で、外出の機会や地域行事への参加は少なくなっているが、日常に於ける近隣の散歩の機会を多くして自然とのふれあいを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所の方針を理念とし、ホーム内の見やすい場所に掲示、職員間で共通理解し積極的に実践に向けて取り組んでいる。 | 地域密着としての新しい「理念」を掲げ、散歩や事業所内での支援に於いては「職員と共に楽しく、ゆっくり」を念頭に実践に活かしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の祭りに参加し、地域から孤立することなく「小学校の運動会」等に参加し、地域との関わりを持っている。 | 最近は車椅子で過ごす方が多くなり、地域行事への参加の機会は殆んど無くなっているが、事業所主催の「夏祭り」には近隣の方に来て頂き交流している。日常的には近くを散歩して地域の方と交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の小学校の課外学習・ヘルパー実習の受入れ等を通じ、施設や認知症の方の理解や生活の様子や介護の方法等を伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度の推進会議では、ホーム内の行事や評価への取り組み状況を報告し、話し合いの機会を設けて、サービスの向上に繋げるよう活かしている。 | 包括支援センター、自治会長、民生委員等の参加を得て2カ月毎に開催している。事業所の近況報告をして、実態を知って頂くと共に、徘徊者のGPS対応や、地区市民センター行事の内容についても情報を得て事業所として検討している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 介護相談員が月1回訪問し、利用者の思いを傾聴等情報を交換している。来訪時に居室の空き状況や伝達事項を伝え連携し、わからないことは相談している。 | 包括支援センターの職員による来所が2カ月毎にあり情報交換しており、介護相談員の来所も月一度あり、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしない介護を目指していることは、職員間で共通認識となっている。また、無意識のうちに身体拘束をしない取組みを話し合っている。 | 身体拘束禁止のマニュアルに基づき職員の研修が実施されており、身体拘束による弊害について共有されている。昨年は身体拘束の必要な方が有ったが、家族との「同意書」を交わして実施している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 利用者の身体に異変がないかよく観察しています。特に入浴の際にはアザ等がないか、注意をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用の利用者がいた。運営推進会議にも出席、職員全員理解している。今後必要な利用者や家族に制度の話をしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時重要事項説明書に基づき説明し、契約を頂いている。ご利用に際しての、サービスの提供の内容・権利・義務等をわかりやすく説明し、説明時には、ご利用者様、ご家族様のご同席を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見、苦情等の担当者を設け、意見箱を設置している。家族との連携を密にしており、家族の意見を聞き出したり、話しやすいような環境作りに努め、意見等があった際はすぐに対応している。 | 家族の面会時には「面会表」を作成して記録しており、家族の意見や要望を職員間で共有して支援に反映している。毎月の請求書には利用者の近況や写真を掲載すると共に、事業所での行事やイベントの様子を掲載した「ホーム便り」を同封している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送りの際に管理者も出席し、何でも話しやすい環境である。意見等は月1回の会議で検討する。 | 利用者一人ひとりの状況を共有するケア会議と事業所全体の運営について話し合う運営会議を兼ねて毎月一度開催し、利用者毎の担当者との職員との情報交換をして支援に活かしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の意見等をその都度聞き、取り入れて対応している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月1度事業所内研修会を実施している。研修には積極的に参加させ、意識や知識を高め合っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他事業所の施設見学や勉強会を通じ互いの情報を交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 職員が利用者様とのコミュニケーションを図り利用者様の希望を傾聴し、不安や戸惑がないかを聞き、本人が安心できるよう信頼関係に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の要望、希望、不安や困り事等を聞く機会を設け、一緒に利用者様を支えて行けるよう、連絡・相談を密にして信頼関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族様より相談内容を聞きながら思いを汲み取り、問題の解決に向けて利用者本位で支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一緒に過ごししながら、それぞれの得意分野を生かして活動して頂いている。利用者職員が助け合い、尊重、理解しながら、ともに支えあう関係作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の訪問時「利用料金支払い時、衣類持参時」やお便りにて、本人の状況を報告し日常生活の様子を把握し理解している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居前に馴染みの人との関係が途切れないよう本人、家族に聞き、面会や電話、手紙のやり取りがいつでも出来るよう努めている。 | 知人や親戚の方の来所があり、楽しみの機会となっている。要望により自宅やお墓参りに同行する時もあり、家族と共に以前の馴染みの場所に出掛ける利用者もある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 調理・レクリエーション等を通じて一人ひとりの生活能力に合わせ、日常生活を過ごしておられる。心身能力が低下されている利用者様のお世話や、いたわりの声掛けをされている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 事業所への訪問や相談しやすい環境づくりに努めている。依頼があれば、相談に乗り、情報提供もしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話や表情から、思いや暮らしの希望を汲み取り、職員が共有することにより、ご利用者本位の生活ができるように努めている。また意思疎通が困難な場合は、表情や顔色等から判断し本人の意思を尊重している。 | 基本的には利用者の話しは否定せず、受容する姿勢を大切にしており、自分で出来る範囲を狭めないように心がけている。自分で判断出来る事を職員は手を出さず、利用者と共に生活の流れを保つ努力をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時、ご利用者様・ご家族様より情報を収集、また、来所時新たな情報を頂いたり、ご利用者様が馴染みの環境で安心した生活ができるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎朝、夕の申し送り、変化時の状況を職員が共有し、現状を把握するように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご利用者様、ご家族様の意向を確認し作成している。又サービス担当者会議や随時ケアカンファレンス等にて職員全員で話し合い検討している。 | 特に大きな介護レベルの変化が無ければ介護計画書の見直しは、4カ月毎に行っている。支援内容の実施状況のモニタリングは、業務日誌等によりケアマネージャーの管理者が行い、見直しの介護計画書に反映している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護日誌で、日々の様子は個別に記載しており、夜勤者に申し送りをしている。また、申し送りノートを活用し業務、利用者様の細かな情報を職員全員が共有できるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者様やご家族様の状況に応じて、通院や外出等の必要な支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 定期的に、手品や歌、踊り等のボランティアの協力により、憩いの時間を支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望を優先し、家族が対応できないときは職員が他医療機関受診支援している。かかりつけ医との連携も密にし、事業所との関係を築き適切な医療を受けるようにしている。 | 昨年9月から新しい協力医に月一度行き受診している。一名の方は要望により以前の医院に家族と共に行き受診している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の健康管理や服薬管理、状態の変化に伴う相談等、協力医療機関である主治医と連携をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には本人に関する情報を提供し、入院中は定期的に状態の確認、担当医・担当看護師との情報交換を行い、また出来る限り職員が見舞うようにしている。退院に向け、本人・家族が安心できるよう支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用契約時に、終末期について話をしている。重度化した場合には出来る限りのケアに努め、本人・家族の希望を受け入れるよう取り組んでいる。 | 「看取りに関する指針」及び、「終末期ケアについての同意書」の原案は出来ているが、家族との方針を共有する段階には至っていない。 | 原案に基づき協力医との話し合いを進め、事業所としての指針を定め、家族との同意書を交わす事が期待される。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成、職員全員が実践に向け対応が出来るよう研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 利用者の急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成、常に対応できるよう見やすい場所に掲示してある。年2回「夜間・昼間」想定し、火災・震災時の訓練をしている。 | 消防署立会いの消火訓練、避難訓練等が年二回実施されており、事故・災害時の連絡手順が定められ職員間で共有されている。 | 地震や火災発生時には2～3人で対応する必要がある事が考えられるので、その際の対応手順を職員と話し合い、実践に役立つ訓練を行い職員や家族の不安を取り除く事が望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その時々の方の本人の気持ちを大切に考え、さりげない声掛けや対応を心がけている。トイレ、入浴介助時は本人の思いに沿って、無理強いしないよう支援している。 | 年間研修・行事計画に基づき、個人情報管理の研修が実施されており、利用者の個人情報について事業所外では話さない等の共有がされている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々のかかわりの中で、ご利用者様との信頼関係を築き、一人ひとりの意思を尊重しながら対応に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調に合わせて、本人のペースを優先、「食事、入浴、レク」参加は、本人の思いを尊重している。また買い物などもなるべく希望に添えるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご利用者様の希望に合わせて、家族対応で馴染みの美容院へ出掛ける支援をしている。またご家族が対応できない場合は「美容師資格取得」の職員が利用者様の希望に応じて対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の好みや栄養のバランスを考慮している「栄養士」が立てた献立「食材」を利用し、調理の下準備等を一緒に行い、食事中も見守り、また会話を楽しくしている。 | 食材は外部業者から取り寄せ、調理専任の方が昼食、夕食を作って提供している。食事のサポートを要する方が二名で職員が補助している。時には利用者と共にホットケーキやおしるこ等を作りながら、楽しみの工夫をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日の食事量や水分量をチェックし、個別記録にし把握している。一日を通じて一人ひとりに合った量を確保できるよう、好き嫌いやアレルギーの有無等を確認しながらバランスの良い食事を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケア支援している。義歯損傷やかみ合わないときは家族に連絡し治療をしている。・・・家族が対応できないときは協力歯科へ職員が対応している。また訪問歯科も利用し口腔ケア支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のチェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツや尿取りパットを使用している方もトイレでの排泄を心がけ自立に向けた支援をしている。 | 昼、夜共に「布パンツ」で過ごせる方が二名で、その他の方はリハビリパンツやパットで対応しながら「トイレ誘導」している。車椅子利用の方も立位での排泄支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄の記録をして、ご利用者様の排泄パターンを確認している。ご利用者様一人ひとりの排泄パターンに応じた乳製品、牛乳の摂取、水分の摂取等を行っている。また散歩や軽い運動を声掛けし、支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 一日おきに入浴している。入浴が好きで楽しみにしている方、入浴嫌いの方等様々であるも入浴前に気持ちの準備が出来るよう「じゃんけん」ゲーム等で順番を決めるなどの工夫をしている。無理強いはいしないよう工夫している。 | 夏期は週3回、冬期は週2回を基本に入浴の支援しており、朝夕には必ず清拭を行い清潔に配慮している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を一人ひとりの体調に合わせて無理のない範囲で運動「内外歩行運動支援」「レクリエーション活動」等で夜間の安眠に繋げる支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬の説明書は個別にファイル化し、何時でも職員が把握できるようになっている。薬は飲みやすいように1包化、職員が手渡しまたは口腔内に服薬支援し、確認している。内服の変更時は、日勤者より夜勤者へ申し送りしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 趣味や得意分野を事前に把握し、物や場所等ご利用者様が自由に対応できるような環境作りをしている。また掃除、調理、配膳等の手伝いをして頂いたり、散歩や畑仕事等で気分転換を図り、みんなで楽しめる場面作りを支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者様の気分や体調を伺い、日常的に買い物や外出、「果物の収穫」を兼ねての散歩支援をしている。また月1回定期的にご利用者様全員で花見、外食等に出掛けている。 | 日常的には事業所の近隣を散歩して外気に触れながら五感刺激に配慮している。四季それぞれの花見や紅葉狩りには、車椅子利用の方を含め出掛けており喜ばれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | スーパーマーケットや近隣のコンビニへ買い物に出掛け、金銭の支払いができる方は、ご自分の好みの物を購入し、自己で支払いして頂く支援を実施している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人が「家族や友人に電話を掛たい」と要望があった場合、また手紙を出したり、受け取ったり、とその都度支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間「フロアー」に利用者様全員で制作した「毎月季節感を感じる壁画」を掲示。又近隣の方から季節の花を毎日のようにいただき季節感のある花を飾り、日常生活が居心地良く過ごせる環境づくりに努めている。 | 食堂兼居間は大きな掃き出しの窓があり明るく、少し古くなった「ウッドデッキ」もあって日向ぼっこや雑談の場所として利用されている。壁面には利用者の作品が多く飾られ、家族や来所者の話題提供にもなっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールは憩いの場としてスペースを広く取り、また開放的な大きな窓の外にはウッドデッキを設置し、窓からは野菜、果物が良く見え利用者様にとって安心して日常生活を送れるように居心地の良い環境づくりに努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具や寝具、家族の写真や馴染みの物に囲まれ安心して暮らせるよう配慮している。 | ベッドと小物入れが事業所として設置されており、テレビやハンガー掛けが持ち込まれている居室もある。車椅子を利用されている方の居室は、物を置かずにスッキリしており、それぞれに配慮して居心地良く過ごせる工夫がある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご利用者様、個々の状態にあわせ居室のドアの目の高さに表札を掲示し自己の部屋が分かりやすくしている。又トイレ等にもわかりやすく掲示している。迷い等があった場合その都度職員が対応している。 | | |